

実践事例や教材の活用事例等、英語科の先生方に参考にしていただける情報をお届けします。

実践  
紹介いきいきと生徒が楽しむ  
表現活動

元中学校教諭（現非常勤講師）  
池田ゆう子

**はじめに** 教科書が盛沢山で、進度を気にしなくてはならない。詰め込み暗記型の授業はダメだと知りつつ、せざるを得ない状況である。そんな授業で楽しいはずがない。生徒たちがいきいきするはずがない。教師は、生徒のことを知って楽しい。生徒は友達や、教師の人となりを知っておもしろがる。心がかよう授業をしたい。英語は、日本のことを世界に発信し、世界のことを知るための道具。自分のことを他人に伝え、他人のことを知るための道具。授業は、自分を出し、クラスメイトを受け入れる時間である。ペアワークで単語を覚え、ともに声を合わせて音読練習をし、文法問題を教え、教えられる。互いの学力や性格を知り、思いやり、協力する。この考えを根底にすえた「英作文指導」の授業を紹介したい。

## 「かぶらない発表会」

1人ずつ英作文を発表して、同じ文を書いた者が、「ピンポン!」と言って、挙手する。どんどん発表していき、全員の発表が終わったときに、自分の作文が誰ともかぶらなかつたら、シールをもらえるという発表会である。

## [1年での実施例]

## ①今日のお題は・・・ I have ○○ in my ○○. と板書。

- ・○○には、物の名前が入ることを教える。ここで、名詞という言葉や、品詞の概念を教えるとよい。
- ・I was surprised to ◇◇ ○○. / ○○ makes me △△. など、お題は学年の学習内容に応じて設定する。  
(◇: 動詞 △: 形容詞)

## ②1人、3文作る。(お題が印刷され、作文を書く欄が6つある用紙を配る)

- ・文の内容は真実でも、あり得ない話でもよい。うけねらいの面白作文、大歓迎。
- ・使える語彙は板書やプリントで与える。教科書の付録ページも利用できる。
- ・制限時間（5分程度）を設定して3文作らせ、速くできる生徒には、もっと作らせる。
- ・机間巡視をして、できるだけたくさん生徒と関わりたい。

## ③班内で順番に発表。(4～6人くらいがいいと思われる)

- ・自分の文と同じときは、「ピンポン!」と言って挙手をする。左手で机をたたき、右手を頭上で開く者もいて楽しい。
- ・友達とかぶった文に✓をつける（「ピンポン!」と言った者も、言われた者も✓をつける）。
- ・自分の3文全てが、かぶった場合は、さらにもう1文作り、3周したら終わり。かぶらなかつた数だけシールをもらえる。

終了後に、回収し、よくできているもの、面白いものを紹介するとさらに楽しい。生徒たちは、「ピンポン!」と言うことも楽しく、お互いの性格や学力もだんだん見えてきて、人間関係を深めることができる。生徒がいきいきと言語活動に取り組み、声をかけあい、笑い声が響く時間である。

## 「かぶらない発表会」の応用

発表会は時間がかかるので何度もできないが、お題を設定して文を作るだけなので、発表方法を工夫すれば、宿題、小テストなど日々の授業でも簡単に実施できる。

### 【習熟度別少人数授業の場合】…大きめの用紙に作文を書き、黒板に貼って、全員で見えていく。

- ・お題を板書する。
- ・生徒には、B4更紙を配布。縦半分に折って使用。裏表を使えば、1枚で4回出題できる。(太字の水性ペンを準備しておく、座席から見やすく、誰の作文であるかもわかりやすい。)
- ・制限時間は3分程度。生徒自身が作文を書いた更紙を前のボードに貼りに行く。(教師が内容を見て、似ている文を近くに配置しながら貼るとよい。)
- ・全員分貼り終わったら、ポイントをつけながら、全員で読む。(全くかぶっていない文=2ポイント、似ているものがある文=1ポイント、大うけした文は+1ポイント)
- ・文法のミスを見つけたら、生徒たちに訂正させ、どんなミスが多いかに気づかせる。

### 【小テストの場合】…テスト範囲の語句をお題にして、作文させる。

3年で、例文付き連語集を使い、5文ずつ例文を暗記する小テストを実施したときは、4文は例文の和文英訳で、1文だけは連語を使った自由作文にした。(例: remind A of Bを使って英文を書きなさい。) 現実味を出させるために、主語は、he, she, it, they 以外にすると面白い文ができる。

また、有名人や世間のネタで書く生徒の作文(例: Keisuke Honda is good at talking with Brazilians. / Matsumoto Hitoshi is good at making people happy. / I am interested in wearing NIKE shoes. / Shinzo is interested in playing golf.) があり、読むのが楽しい。花丸をつけコメントを書く、返却時に口頭で紹介する、プリントに掲載するなど、生徒のモチベーションをあげることができる。

### 【宿題の場合】…教科書本文中の一文だけ指定して、オリジナル作文を書く。

学力差があるので、難易度の違う課題にし、生徒が選択する。(①指定の文を3回練習 ②一語だけ変えて作文 ③一語変えて、さらに語句を付け加える ④指定していない文でも作る) これは、友達の宿題をうつさない(=かぶらない)ことを狙っている。本文全てで作文する生徒もいた。

### 【「かぶらない作文」の学習効果】…ありがちなミスに気づくチャンス。

多発するミスは、冠詞、複数形や三単現のs忘れ、be動詞の選択ミス、名詞の可算か不可算かのミスである。生徒たちは「小さなミス」だと思っているが、これは「重大なミス」である。なぜならば、難しい文型や単語、連語を使っても、減点されるのは、上記のミスであるからだ。普段から、たくさん間違える機会を作ることで、これらのミスを減らしていく効果があると思われる。

現在、勤めている学校で、1年の先生にこの方法を紹介したところ、早速実施してくれた。お題は「不規則動詞の過去形の文」で、不規則動詞のリストを配り、授業中に作文させた。回収し、なるべく多くの作文をプリントで紹介している。かぶらない発表会ではないが、学年の先生のネタがたくさんあり、楽しんで作文に取り組む様子うかがえる。そして、先生のコメント付きのプリントを、みんなで楽しく読んでいる様子が目に浮かぶ。

**最後に** 英語教師としてできることは、英語を好きにさせること、英語を話してみたい気持ちを育てることだ。「わかりやすい授業だけ」でなく、「楽しい授業」や「自分を出せる時間」をプラスしたい。自分の考えを英語で書くことに慣れ、発表することを楽しみ、友達の考えを知ることを楽しむ。英語でコミュニケーションを図る最初の場所として、生徒たちがいきいきと表現活動をする授業を作っていきたい。

